

社会保障

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

社会保障はどんなしくみで、どんな課題をかかえているのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 社会保障制度

四つの柱

しゃかいほしょう
社会保障

国民の生活を支え、保障する制度。

しゃかいほけん
社会保険

保険料を出し合い、病気や老後などにそなえる制度。

こうてきふじょ
公的扶助

生活に困る人に生活費などを支給する制度。

日本国憲法第25条は、すべての国民に「健康で文化的な最低限度の生活」を営む権利(生存権)を保障している。この権利を実現するため、国は社会保障の制度を整えている。社会保障は、病気やけが、失業などの思いがけない困りごとから人々の暮らしを守るしくみで、次の四つの柱からなる。

病気・失業・老後などにそなえ、人々が保険料を出し合う社会保険には、医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険・労災保険がある。生活に困る人に生活費などを支給する公的扶助の代表は生活保護である。高齢者・障がいのある人・子どもなどを支える社会福祉、感染症の予防や上下水道の整備などを行う公衆衛生もある。

柱	内容
社会保険	医療・年金・介護・雇用・労災
公的扶助	生活保護など
社会福祉・公衆衛生	福祉サービス・感染症の予防など

2 社会保障の課題

少子高齢化

しょうしこうれいか
少子高齢化

子どもが減り、高齢者の割合が高まること。

ねんきん
年金

老後などの生活を支える、定期的なお金の給付。

かいごほけん
介護保険

介護が必要な人を社会全体で支える制度。

日本では少子高齢化が進み、年金や医療、介護にかかる費用が増え続けている。その一方で、保険料や税を負担する現役世代は減っている。公的年金は、現役世代が納める保険料で、そのときの高齢者の年金をまかなうしくみ(賦課方式)が中心であるため、世代間の負担の公平が課題となる。

40歳以上が加入する介護保険は、介護が必要な高齢者を社会全体で支えるために2000年に始まった。負担と給付のバランスをどうとるか、「高い負担で手厚い給付」か「低い負担で最低限の給付」かは、私たち一人ひとりが考えるべき課題である。財源の確保や、働く世代・高齢者がともに支え合える制度づくりが求められる。

問いへの答え

社会保障は、憲法第25条の生存権を実現するための制度で、社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生の四つの柱からなる。日本では少子高齢化で年金・医療・介護の費用が増え、現役世代の負担が重くなっているため、負担と給付のバランスや財源の確保が課題となっている。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

